

気候関連リスク管理の優れた慣行 ～オランダ中央銀行

オランダ中央銀行は、気候関連リスクに関して先進的な取り組みをしている中央銀行の一つである。同行は、2020年4月に気候関連リスク管理に関する優れた慣行（good practice）を公表し、気候関連リスクをどのように現行のガバナンスやリスク管理に組み込むかを示した。

オランダ中央銀行（De Nederlandsche Bank : DNB）は、今年4月に気候関連リスク管理に関する優れた慣行（good practice）を公表した。DNBは、気候関連リスクに関して先進的な取り組みをしている中央銀行の一つである。気候変動リスクへの金融監督上の対応を検討することを目的として設立された気候変動リスク等に係る金融当局ネットワーク（Central Banks and Supervisors Network for Greening the Financial System : NGFS）の議長は、DNBの理事であり、報告書作成のために知見を提供していることは良く知られている。なお先月号で紹介した欧州中央銀行の市中協議文書「気候関連・環境リスクに関するガイド」でもオランダの銀行の事例が幾つか紹介されている。

DNBが気候関連リスク管理に積極的に取り組むようになった背景には、オランダの国土の約6割が洪水リスクに晒されており、気候変動、特に海面上昇に脆弱であることがある¹⁾。このためDNBは、他国に先駆けて気候変動、特に大規模な洪水による金融セクターへの影響の把握に取り組んできた²⁾。足もと海外では、気候変動の金融機関への影響を把握するためにストレス・テストの実施を予定している金融監督当局が増えているが、DNBは世界で初めて気候変動に関するストレス・テストを実施した中央銀行でもある。

優れた慣行～ガバナンス、リスク管理及び情報開示

DNBは、1) ガバナンス、2) リスク管理、3) 情報開示という3つの領域について「優れた慣行」を例示している。なおこの優れた慣行に関する文書は、気候関連リスク管理に関する拘束力のないガイダンスと位置付け

られている。

1) 「ガバナンス」の要諦は、責任の明確化にある。気候関連リスクに対する全社的な戦略アプローチを採用している銀行が例示されている。この銀行は、①自らのリスク・プロファイルに対する気候関連リスクの影響を理解している、②気候関連リスクを管理するに当たり、戦略とガバナンス上の取り決めをどのように適用すべきかを決定している、③目標、計画及び予算の手当などの必要な改革を実施するための責任を割当てていることが評価された。なお、この銀行では、取締役会が全社的な取り組みを監視する責任を担い、取締役の報酬は達成すべき目標と連動している。

更に気候関連の方針とガバナンス・フレームワークを統合した事例も挙げている。この銀行は、①CROやリスク管理部門の気候関連リスクに対する責任の明確化、②重要なリスクの取締役会へエスカレーションする手順の確立、③セクター別の管理要件の設定とその業務部門への伝達という点が評価された。

2) 「リスク管理」の要諦は、気候関連リスクを計測可能かつ実行可能なものとすることである。図表の通り、DNBは、リスクの特定、評価、モニタリングそして削減という4つの観点から優れた慣行を例示している。

3) 「情報開示」の要諦は、必要なデータの収集である。利用可能なデータの不足は、情報開示やリスク評価において大きな課題となっている。優れた慣行には、利用可能なデータを増やすために、顧客の事業運営に積極的に関与し、情報取得に努力している銀行や、融資及び投資ポートフォリオの二酸化炭素排出量の開示に際して、①発生した排出量、②回避された排出量、③隔離された排出量に分類している銀行の事例が挙げられた。

NOTE

- 1) オランダ政府は、長年の間、洪水から国土を守るために精力的に治水事業を推進してきた。70億ユーロを超える予算をかけて、2028年までに安全対策を更に強化する予定である。なおDNBは、政府がどのような政策をとるかによって気候変動が金融セクターへ及ぼす影響の大きさは変化するとし、気候関連リスク管理における政策の重要性について言及している。
- 2) 洪水による損害は政府により補償されるが、損害のすべてが補償の対象となるわけではない。損害の一部は、個人や企業が引き受けなければならないこともDNBが金融セクターへの影響の分析に力を入れている理由の一つである。

図表 リスク管理の優れた慣行

分野	事例	分野	事例
リスク特定	優れた慣行 (1) : 潜在的なリスク集中を特定するためのヒートマップ作成。 評価ポイント: 石油・ガス、農業などの業種について、①CO ₂ 集約型資産、不動産ポートフォリオのエネルギー消費量の分布、②リスクの高い地域にある担保資産などの情報に基づき、物理的及び移行リスクを評価、格付けしていること。	リスク・モニタリング	優れた慣行 (1) : 気候関連リスク指標をリスク・アパタイト・ステートメントに統合すること。 評価ポイント: CO ₂ 集約型業種へのエクスポージャーの集中度や二酸化炭素排出量などをリスク・アパタイト指標として設定し、ポートフォリオあるいは業種レベルで限度枠を設定し、モニタリングしていること。
	優れた慣行 (2) : 気候シナリオ分析の戦略的意思決定への活用。 評価ポイント: シナリオ分析において事業計画サイクル (3~5年) だけでなく、長期 (5年以上) ^(注1) の影響の両方を評価している、②シナリオに気候関連の政策や技術革新の影響に関する仮説や、地域、国及び市場による違いに関する仮説を含めていること。		優れた慣行 (2) : 気候関連リスク評価を明示的に審査に含めること。 評価ポイント: ①物理的リスクと移行リスクだけでなく、それらが銀行の風評リスクとして顕在化する可能性も含めて評価していること、②顧客や取引の気候関連リスクを3段階 (赤、黄、青) で評価していること、③赤や黄色の場合は、専門担当者による追加的な承認や途上モニタリングの強化を義務付けていること。
リスク評価	優れた慣行 (1) : ストレス・テストを活用した気候関連リスクの重要性の評価。 評価ポイント: ①化石燃料から再生エネルギーへの無秩序な移行を想定したシナリオで、化石燃料会社だけでなく、その生産チェーンに属する企業のデフォルト確率とデフォルト時損失率にストレスを与え、移行リスク ^(注2) の大きさを評価していること、②物理的リスク ^(注3) については、担保資産のデフォルト時損失率だけでなく、借り手企業の事業運営への間接的な影響も含めて評価している ^(注4) こと。	リスク削減	優れた慣行 (1) : リスク・アパタイトに合致しない気候関連リスクの削減。 評価のポイント: 気候関連リスクを回避あるいは削減するために、①気候関連リスクに脆弱なセクター向けの融資に期間の限度を設定する、②不動産担保が基準を満たさない場合は、担保価値に対する貸出限度枠を引き下げる、③生産活動が気象条件に大きく依存する場合は、借り手に保険加入を義務付ける、④CO ₂ 集約型企業にサステナブル・エネルギー移行戦略の実施を求めるなどの施策を講じていること。
	優れた慣行 (2) : 二酸化炭素排出量と気候関連リスクの関連性を評価する方法論の開発。 評価ポイント: CO ₂ 集約型業種へのエクスポージャーについて、①炭素税などの規制の影響、②需要の変化や技術革新の影響、③銀行へのリスク移転による影響の3点を定期的に評価し、モデル・パラメーターの設定に役立てていること。		優れた慣行 (2) : 銀行の運営に影響を与える物理的リスクの削減。 評価ポイント: データセンターを地理的に分散していること。

(注1) 例えば、影響が顕在化するまでの期間
 (注2) DNBは、移行リスクをカーボン・ニュートラル経済へ向けた調整プロセスから生じるリスクと定義
 (注3) DNBは、物理的リスクをより頻繁で厳しい気候イベントから生じるリスクと定義
 (注4) 借り手企業のデフォルト確率を調整
 (出所) DNB, "Good Practice Integration of climate-related risk considerations into banks' risk management"

DNBが公表した優れた慣行は、気候関連リスクをどのように現行のガバナンスやリスク管理に組み込むかについて検討している本邦金融機関にとって参考になると考える。

Writer's Profile



川橋 仁美 Hitomi Kawahashi
 金融イノベーション研究部
 上級研究員
 専門は内外金融機関経営、ALM、リスク管理
 focus@nri.co.jp